

刊行にあたって

本書は、三井大坂両替店^{だな}が一三八年間にわたって作成した顧客の信用調査書を翻刻し、参照、検索しやすいようにデータベース化したものである。

三井家の元祖として知られる三井高利^{たかし}は、延宝元年（二六七三）に江戸呉服店を開業したのち、呉服の仕入れを円滑にするためにも、為替・両替・融資業務を担当する両替店の設置を進めた。天和三年（二六八三）には江戸両替店、貞享三年（二六八六）には京都両替店、元禄四年（二六九二）には大坂両替店を開業した。このうち大坂両替店は、開業当初には高麗橋一丁目（現大阪府大阪市中央区）の南側、呉服店の隣に店舗を構えたが、宝永三年（二七〇六）頃に高麗橋三丁目の北側に移転した。

本書に収録した信用調査書（「日用留」、「日用帳」、「聴合帳」）は、大坂両替店の手代が借入希望者である顧客の提供担保（所有する家屋敷や品物）や年齢、家族構成、人柄、業種、経営状態などを調査、記録したものであり、享保一七年（一七三二）から明治二年（一八六九）まで欠年なしで現存している。調査対象件数は実に三一〇八件に達し、一件につき複数人が連印で借入を希望した場合も多々あったので、それらを含めると調査対象人数は三八二五名にも及んだ。果たしてその顧客に融資し、確実に回収できるのかどうか。大坂両替店の手代が顧客の隣人や五人組員、親類、取引先に聞き回った詳細な調査記録がここにある。

本書が備える最も重要な価値は、今まで名前と居住地、業種くらいしか判明しなかった大坂商人たちの素性を知ることができる点にある。大坂商人は、商品流通の中心的な担い手として、あるいは諸大名や村々への金貸し業者として、全国各地に幅広く登場する存在であった。大坂を調べたいひとだけでなく、大坂商人が登場する地域を調べたいひとにとっても、本書は重要な知見を提供してくれるはずである。

これまで、大坂商人を調べようとすれば、大坂の買物案内・地誌類や、中川すがねが作成した「近世後期大坂の手形取り扱い商人」データベースを読むことが一般的であった（中川すがね『大坂両替商の金融と社会』清文堂出版、二〇〇三年、巻末附表）。

これらも極めて重要な知見を提供してくれるが、名前と居住地、業種しか知りえない。対して本書は、大坂両替店が信用調査を実施した顧客に限られるものの、大商人から借家人に至るまで、大坂両替店の手代が入念に調べた顧客の信用情報を知ることができ、本書を参照することにより、大坂だけでなく全国各地の研究が前進することを期待したい。

本書の刊行にあたっては、岩淵令治先生のご紹介により、株式会社勉誠社の吉田祐輔氏のご高配を賜った。記して御礼申し上げます。なお、大坂両替店の金融業、組織と人事、信用調査については、『三井大坂両替店 銀行業の先駆け、その技術と挑戦』（中央公論新社、二〇二四年）にまとめた。本書とあわせて参照していただければ幸いです。

二〇二四年二月

萬代 悠